

パーソナル・アシスタンス とも 通信

いっしょに生きる

楽しく生きる

コロナ禍でも ともに生きる実践を

支援が必要な一人一人のニーズに寄り添うため、「とも」は多様な規模の小さい事業所を市内各所で運営しています。「地域でともに生きる」という「とも」の理念を実現するためにも、社会状況や制度の変化に合わせて支援が安定的に提供できるように体制を整え、当事者の声にならない声に耳を寄せて想いをすくい取るために、現在のような形になっています。

最近「とも」が新たに始めたのが就労支援B型事業です。浦安市老人福祉センター（Uセンター）内にある「カフェテラスゆう」と今川の住宅地にある「キッチンカフェほっぷ」の2拠点で、飲食店として事業を行っています。ただ、図らずもスタートが新型コロナウイルスの流行し始めた時期と重なってしまった為に本当

に大変な船出になり、他の飲食業の皆様と同様、現在も困難な状況で営業を続けています。

もちろん利用者さんや訪れてくださるお客様、そして我々職員も感染しないように、いくつかの予防策を実践しながら運営していますが、就労支援の現場として利用者さん一人一人の居場所や役割を確保し、少しでも不安なく過ごすことができるように心を砕いています。利用者さんも不安ではあるけれど、「頑張りたい」という強い気持ちで仕事に取り組んでいます。そんな利用者さんの姿を見ると、誰もが自分の居場所や役割、そして何よりも人とのつながりを必要としていて感じます。

利用者さんの就労訓練の機会を確保するために、「ゆう」でも「ほっぷ」でも早くからテイクアウトのお弁当販売に切り替えたり、新鮮野菜の販売をしたりしています。また、「ゆう」では、長年地域の皆様方にご協力いただいた「駅前ほっぷ」のようなリサイクルコーナーを、規模を縮小して設けています。今年度からは新型コロナウイルスの影響で利用が極端に減少した斎場売店も、浦安市の許可を得て、直接雇用に加えて職業訓練の場としても運営しています。

利用者さんは多くのお客様と接したい、たくさんお話もしたいと思っています。その希望がなかなか叶わない昨今ですが、制限がある日々でも皆が自分の役割を持ち、つながりを感じることができ工夫をすることが、私たち支援者の役割だと思っています。そしてそれは私たち自身にとっても、同じように必要なことではないかと感じています。

「ともに生きる」社会の実現のため、皆様とつながり続けられるように、これからも前を向いて進んでまいります。どうか今後とも、変わらぬご協力をよろしくお願い申し上げます。

西田良枝

社会福祉法人 パーソナル・アシスタンス とも 理事長就任のご挨拶

2021年6月理事会において、大槻前理事長に代わり再び理事長に就任することになりました。創立20周年の節目に理事長職に戻ることは改めて身の引き締まる思いです。関係者の皆様のお力をお借りし、職員と共に「とも」が社会福祉法人の目的である地域福祉の向上に真に寄与できるよう尽力する所存です。



今後とも変わらぬご支援ご協力を、よろしくお願い申し上げます。

西田良枝

「障害児通所支援事業所マリナー」の ダンスクラブ

人気プログラムを紹介!!

大好評の親子、家族で参加できる月1回のダンスクラブ。このダンスクラブは、障がいのある子もない子も一緒に楽しめるプログラムを実施したい!という現場の思いから始まりました。

長く身体障がい者福祉センターで看護師として勤務していた、元テーマパークダンサーでもある講師と一緒に、季節の音楽に合わせて体を動かす楽しいプログラムです。難しい動きでも、先生の魔法の声掛けで自然とみんなの動きが一致し、一体感、達成感を味わえます。子どもたちは、家に帰ってからも、繰り返し踊ったりして、本当に楽しそうです。

未就学児運動プログラム

作業療法士による未就学児運動プログラムを開始しました。

保護者の方から、「片足立ちができない」「ボールがうまく投げられない」「靴がはけない」「運動が苦手なので公園が嫌い」などの心配とともに、小さいときから体を動かせる機会があると嬉しい、というニーズが多く寄せられ、そのニーズに応えようと始めたプログラムです。

平均台やドーナツクッション、マット等を使って、遊びながら体を動かします。運動遊びを通して考える力や集中力を育み、成功体験を積むことで自己肯定感が向上します。体を動かすことが大好きになること間違いなしです!!



<開催概要>

【日程】 月に1回 <第4日曜日>

午前中（開催場所により変動します）

【場所】 市内の公民館 大集会室

【実費】

★児童発達、放課後等デイサービス利用対象者

児童発達支援・放課後等デイサービスの利用料+
500円

★小学生から中学生 700円

★ごきょうだいは割引価格の300円



<開催概要>

【日程】 毎週月曜日 11時～12時

【場所】 障害児通所支援事業所マリナー

【人数】 2～3人の少人数

ふたつのプログラムについて、関心がある方は下記
連絡先まで、お気軽にお問合せください。

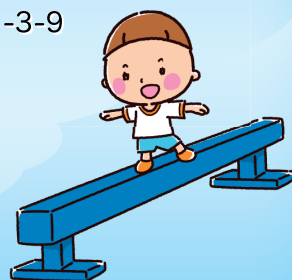
【お問い合わせ】

児童発達支援・放課後等デイサービス マリナー

〒274-0003 浦安市海楽1-3-9

TEL: 047-304-8815

FAX: 047-304-8816



MARINA

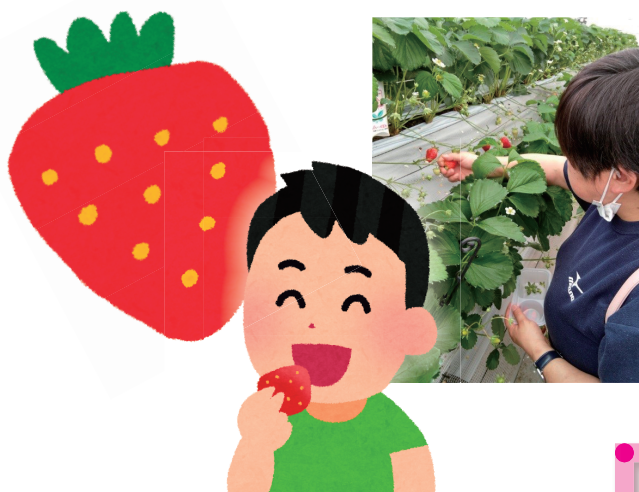
パーソナルケアセンター外出企画レポート イチゴ狩りに行ってきました！

2021年5月23日に、パーソナルケアセンターの外出プログラムで、越谷いちごタウンへいちご狩りに行ってきました！まだまだコロナ禍は続いています、感染対策などを慎重に検討し、フェイスシールド姿の職員は見守りに徹して万全の体制でプログラムを実施しました。

パーソナルケアセンターの外出はセンターが行き先の提案をして実施しますが、通所施設などの外出プログラムとは異なり、複数の利用者さんが同じ目的地に行くものの、各々に移動支援のスタッフが付き、自由に行動できることが魅力のイベントです。今回はコロナの状況を考え、それぞれで現地集合する事にしました。

外出プログラムは個別のケアなので、自分が

食べたい品種のいちごがあるビニールハウスへ自由に行くことができます。真っ赤なイチゴを嬉しそうに食べている利用者さんを見て、スタッフも笑顔になる、みんなが大満足の外出でした。



キッチンカフェほっぷ 元気に営業中です！！

コロナによってなかなか明るい兆しが見えない中でも、「キッチンカフェほっぷ」は、頑張っ
て営業しています。地域の方に好評な定番の
ランチやお弁当に加え、夏メニューのカキ氷
と冷やし中華も始めました。県の「飲食店の
感染防止対策に関する現地調査」も受け、感
染対策が万全であるとお墨付きをいただきま
した。用意万端整えて、皆様のご来店をお待
ちしています。



キッチンカフェほっぷ

今川4-2-4 今川ハイム1階

TEL 047-304-8820

営業時間

11:30~20:00(19:30ラストオーダー)

※お酒の提供は19時までになります。

※行政の指示に従い、営業時間を変更して
おります。今後も状況に応じて変更の可能性
があります。詳しくはお問い合わせ下さい。

電話：047-304-8820

※お客様の同時入店人数は10人までとさ
せていただいております。



職員寄稿

～ともの来た道、「とも」と行く道～

「地元愛」で利用者さんと地域とをつなぐ

私は「とも」に8年前に入職し、現在はパーソナルケアセンターのヘルパーとして働いています。隣市の市川市で育った私は子供のころから浦安市でもよく遊んでいたの、浦安は愛着のある「地元」です。「地元に貢献したい」という思いから、「地域」への想いの強いともへ入職。現在では「中堅職員」と呼ばれる立場となり、多くの利用者に関わりを持っています。

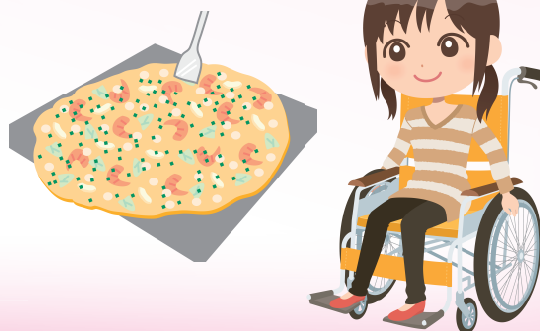
パーソナルケアセンターでは、「外出支援」に力を入れており、その中でも特に「余暇外出」はこれまでに培った支援力の見せ所だと思っています。本人の意向を引き出し、可能な限り思いを叶え、楽しく「余暇」を過ごせるように支援をします。しかしそれは、本人とヘルパーの力だけでは叶わないこともあります。地域の方々の力を借りて想いを実現する。それが出来たときに、本人は勿論、我々ヘルパーにも大きな達成感と喜びが生まれます。

印象的な出来事として、麻痺があり車椅子で生活している利用者さんとの、外出の思い出があります。その方は「地元でおいしいものが食べたい」という希望がありました。しかし、車椅子を利用しているので入れる場所が限られたり、麻痺があることで、鉄板料理などテーブルで調理をするような外食は難しい

状態でした。外出の際に彼のそんな「想い」を知り、何とか実現したい!と思いました。その日は「もんじゃ」が食べたいとのことで、事前に連絡を取り、受け入れてくれた市内のお店に向かいました。入口は階段になっていましたが、店員さんの助けを借りて店の中に入ることができ、席も十分スペースのある場所を確保してくれました。利用者さんは「こんなに良くしてもらったことはない」と感激し、気持ち良く受け入れてくれたお店にも感謝していました。店員さんの配慮に、同行した自分も温かい気持ちになりました。

これからもこのような「温かな気持ち」が地元浦安の地域の中に広がっていくよう、理念に沿って頑張っていきたいと思います。

W・R



職員寄稿

～ともの来た道、「とも」と行く道～

「とも」の支援で地域を学べる日々

私は看護師として「とも」に入職し丸3年が経ちました。最初の所属は浦安市身体障がい者福祉センター（略称：身障センター）で、身体に障がいのある方の日中活動の支援をさせていただきました。福祉の世界がわからない中で、障がいのある方々の日常生活の様子や楽しみ、不安な事や不便な事等、自分には知らないことが本当にたくさんあったのだな、と恥ずかしくなりました。身障センターには様々な職種の専門職が計画に基づいた役割をもち、利用者さんの地域生活を途切れなく支える重要な一員として働いていることを学びました。このような当事者を支える仕組みがある事、それを実践するために日々奮闘している先輩方の姿を見て、地域で暮らしていくことに可能性を

感じ、自分もその一員としてもっと力になりたい、と思うようになりました。

そのような中、「訪問看護ステーションとも」が新たに立ち上がり、先輩方と共に稼働し、もうすぐ2年目に入ります。「医療ケアや障がいがあっても豊かに生きることをあきらめないでほしい」という思いを大切に支援をしています。

訪問させていただいている利用者さんは、赤ちゃんから高齢の方まで幅広く、身体の病気・精神の病気・障がいを持っている方など様々な方との出会いがあります。体調が良い時も悪い時もあり、一緒に笑ったり、緊急時には夜間に駆けつけて「大変でしたね」と励まし合ったり、苦楽を共にして支援し、充実した毎日です。最近では立ち上げた頃、生後5か月だったお子さんが2歳になり、一緒にお歌を歌ってお祝いできたことが、とても嬉しい出来事でした。利用者さんたちが、ともの理念を簡潔に表した「一緒に生きる 楽しく生きる」という生活ができるように、これからも元気に支援ができたと思います。

現在は管理者をしながら、同じ志や夢をもったスタッフと一緒に、訪問看護やリハビリのスキルアップに努めています。更に地域に貢献できるステーションになれるよう、また「とも」の一員として地域作りの勉強を続けていきたいと思います。

Y・Y



職員寄稿

～ともの来た道、「とも」と行く道～

障がいのある人の「働く」を支えた13年

私は「とも」に入職して13年になります。ずっと就労支援に関わってきました。初めは、浦安市の運営する斎場の売店で、当事者雇用の職員と一緒に働きました。最初は障がいのある方と働くって何をどうしたら良いのか全くわかりませんでした。引継ぎをしてくれた方が「なにも知らなくていい。普通に働いてもらいなさい。」と言ってくれました。今思えば、「偏見を持つな。」と私に伝えたかったのだと思います。

障がいのある方が働くのはとても困難なことのように感じる方も多いと思いますが、ひとりひとりに合わせて適切な支援をすれば、仕事を覚え、手順に従って

動くこともできるようになります。最初は簡単な作業から始め、徐々に指示がなくても作業

ができるようになる方もいます。そして何よりも、仕事への意欲が高い方が多いのです。仕事を頑張ってお給料をもらって、好きなものを買ったり楽しいことに使ったり、税金だって障

がいのない人と同じように納めます。障がいのある人たちは懸命です。ちょっとした助けがあれば働けるのです。

今年、人事異動で就労継続支援B型事業所ともに配属されました。斎場は一般就労でしたが、就労継続支援B型事業所ともでの就労支援は就労に向けての訓練の場です。働きたいと夢を持って見学に来る方と接すると、その方の「わくわく感」を感じます。計画を立て、それぞれの目標に向けて訓練をするのですが、中にはじっと座っていることが困難な方やなかなか作業が進まない方もいます。でも出来ることを探してその人にあった作業を提供するのが我々の仕事。いつか一般就労にステップアップするなど、利用者さんがそれぞれの目標を達成してくれることを楽しみにしています。私にとってもこの仕事は自分の成長の場でもあります。悩んだり、工夫したり、喜んだりしながら、障がいのある方と一緒に成長しています。

これからも利用者さんとの出会いを楽しみにしながら、たくさんの人が集うにぎやかな就労継続支援B型事業所ともにしていきたいと思います。

K・H



職員寄稿

～ともの来た道、「とも」と行く道～

24365の地域生活を支える「とも」の支援と私

2021年、ともは創立20周年を迎えます。私がともで働き始めたのは18年前。それから現在に至る間に私も結婚して家庭を持ち、気づけば3児の父になっていました。

最初に配属されたのはヘルパー事業所で、多くの利用者さんとの出会いから様々な経験をさせて頂きました。浦安市単独事業の夜間安心訪問ヘルプサービスを2008年から担っている中で、2011年の東日本大震災で法人本部建屋も全壊認定を受けるほどの被害を受けましたが、厚生労働省のモデル事業の24時間対応の定期巡回・随時対応型訪問サービスを浦安市で行うなどして、私たちは「24時間365日」の体制を何とか維持し、支援を必要としている人にサービスを提供してきました。被災後は液状化で粉じんが舞い外出困難な状況が長く続きましたが、そんな中でも工夫を凝らして2時間程度の外出支援を行い、利用者さん達の心を含めたケアにも努めた事もありました。

現在は市の指定管理の施設である、浦安市障がい者等一時ケアセンターで、勤務しています。浦安市のセーフティーネットである一時ケアセンターは、短期入所・日中一時支援や、市の事業である緊急預かりを担う場所です。当事者が地域で生活していく中で、介護をしている方が体調を崩して緊急搬送された時や、突発的な状況で介護者不在を余儀なくされる時

などに、在宅で過ごす事の出来ない当事者を受け入れ、一時ケアセンターを拠点に普段と変りない生活が送れるよう支援をしています。

ご家族の緊急入院などのときは、一時ケアがあって本当に助かりましたといわれることがあります。ご家族が安心して入院ができ、当事者の方も安心してすごすことができるように24時間365日地域生活を支える、大変ではありますが本当にやりがいのある仕事です。年の半分位の日数は、何らかの理由で緊急利用があります。その人たちの暮らしが地域の中で立ち行くように、私たち一時ケアの職員がチームで支えています。

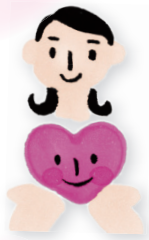
また、一時ケアでは医療的なケアの必要な方の支援も行っており、看護職員と喀痰吸引研修を終了した介護職員で支援にあたっています。特に医療的なケアの必要な児童については利用できる社会資源が少ないこともあり、今後は更にサービス提供を増やしていきたいよう、人材確保も含めて取り組んでいます。

利用者さんと一緒に悩んだり、笑顔をもらったり、時には苦情を頂きながら多くの事を学んできました。

これからは、その経験を後輩たちにつなげて行くことも私の役割だとおもいます。志をともに出来る仲間達と気持ちも新たに次の十年に取り組んでまいります。

K・Y





社会福祉法人 パーソナル・アシスタンス とも ご寄付のお願い

社会福祉法人となっても、その財源は今までも何も変わらない現実です。皆様からの寄付は現在行っている社会福祉事業に役立たせていただきます。皆様のご協力をお願いいたします。なお、「とも」への寄付は、以下の税制上の優遇措置があります。

- ◆個人の方は、所得税に係る「寄付金控除の対象」になっています。
- ◆法人の場合は、一般の寄付金とは別枠で損金の額に算入することができます。
- ◆相続や遺贈によって受けた財産を寄付した場合は、その分は相続税の対象外となります。

寄付金 振込先

京葉銀行 新浦安支店 普通口座 5429331
口座名義：社会福祉法人 パーソナル・アシスタンス とも
理事長 西田良枝



編集人：社会福祉法人 パーソナル・アシスタンス とも
〒279-0022 千葉県浦安市今川1-14-52

<編集後記>

暑い夏が来ました。マスクをする夏も2度目となりました。熱中症に気をつけて、元気に次の季節を迎えたいですね。

【S】